

# 県内避難者「絆」と「和」

## 甲府で集い 東北弁で悩み語り合う



会食しながら交流する被災者ら—甲府・県地場産業センター

えして懇  
談。親子連  
れの参加も  
多く、福島  
県南相馬市  
から甲州市  
に3歳の長  
女と避難し  
ている大村  
ちあきさん  
(27)は「み  
んな今後の  
生活に迷い  
を抱えてい  
る。同じ年  
ごろの子を  
持つママた  
ちとゆっく

東日本大震災で山梨県内に避難している被災者の交流会が17日、甲府・県地場産業センターで開かれた。故郷を離れ、孤立しがちな避難者同士が新しい土地でつながりを持つきっかけにもなるのが狙いで、全県単位の大規模な集いは初の試み。会場では東北弁が飛び交い、参加者が古里の言葉で不安や悩みを話し合った。

交流会は山梨福島県人会と「東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会」が企画し、市町村を通じて参加を呼び掛けた。福島、宮城両県の避難者約100人と、山梨県在住の東北出身者や支援者ら約50人が参加。名前と出身地を書いたネームプレートを着け、避難者と支援者が同じテーブルについて会食した。その後、出身地域別に席替えし、話し合うことができ、あつという間の2時間半だった」と感想。

山梨在住の東北出身者が故郷の方言で話し掛ける場面もみられ、南相馬市から笛吹市に避難している野地ロザリオさん(48)は「地元の言葉が聞こえて、一瞬家に戻ってきたような気がした」と目を細めていた。

郷の方言で話し掛ける場面もみられ、南相馬市から笛吹市に避難している野地ロザリオさん(48)は「地元の言葉が聞こえて、一瞬家に戻ってきたような気がした」と目を細めていた。

会場には被災者の個別面談コーナーを設け、就労や法律、健康などに関する相談を無料で受け付けた。また、新米などの支援物資を配布した。主催団体の会長を務める折笠浩二さん(54)は「参加してくれた人たちの穏やかな表情を見て、企画して良かったと感じた。継続して開催していきたい」と話していた。